



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成27年12月10日(木)

Vol. 317

来る年は心の優しい
豊かさを求める年でありたい

秋元 秀夫

昭和50年代は多世代同居のにぎやかな家族があり、豊かな中流家族であった日本は世界の羨望の的でありました。そして今、核家族が中心となって日本は生活保護163万世帯、高齢者80万世帯、独居73万世帯、医療費は一人当たり65歳未満で年凡そ18万円65歳以上年凡そ75万円となり国の医療費負担は凡そ40兆円、生活保護費もまたおよそ4兆円となって国家財政を揺るがす巨額な負担となり、このままでは今後も減る事は無いと思われま

す。
ダライラマ法王の14世が「私達の矛盾と題して、大きな家に住めるようになったが家族は誰もいなくなった。便利になったけれどいつも時間に追い回されている、高度な教育を受けたけれど物事の分別が無い、知識はたくさん受けたけれど判断ができないのです。それぞれの分野の評論家、専門職、学者は多いけれど、難問題はかえって増えております。病院へも薬も多くなったけれど、段々と気持ちが不健康になっていく様だ。宇宙へ簡単に行けるようになったが、友人や隣人への挨拶や会話は遠のいていく。コンピュータは大量に使われているが、人と人とのつながりはうまく行かない。大量の商品が作られ、売られても長持ちしない消耗品ばかりだ。ファストフードで金と時間を節約しても益々消化力は衰えて、見た目は健康に見えるけれど心は痩せて貧しくひ弱

だ。財産も地位も得たけれど上辺だけの人間になってしまった。外から見れば豊かで幸せそうだが、中身は空っぽ。今はそんな時代だ。」と説いております。

来年は日本だけでなく、世界全体の生活、経済はもっと厳しい年だろうと懸念致して居ります。民主化、近代化が進んで良くなるはずの世界はむしろ逆行して大きな格差社会へと向かっております。その証拠には戦争、紛争が多くなっております。戦争とは格差という貧しさから起こるものであります。汗を流して家族を養う人、コンピュータを駆使し巨大な資本力を持つ一握りの人たちによってその場限りの膨大な利益を追う欲望経済によって、本来「経国済民一國を治め民を救う」経済を歪めてしまっているからであります。なぜと思う時、戦後の貧しさの中で経済的に豊かになればと、私達は死にもの狂いで働いてきました。その忙しさの中で、家族と夕食を囲む団欒、子らと過ごすゆとり(人間の価値)を犠牲にして物の豊かさだけを求めた歪みから生まれた今の経済社会であります。

私の持論であります。かつて中流社会へ再生させるには、地方の産業経済を復活させることであり、これは大変至難な事で不可能に近い事ではありますが、政治、行政にかかわる人達に、地方、中小企業の実態を理解認識してもらう事が先決でありますから、来年は会議所と行政との取り組み方を変えて、政治、行政、産業経済界が一体となって問題点にスピードを持って対処できる組織にしたいと動き始めております。小糸川秋花火は難産でしたが、退路を絶ってやる気になればあのような市民が大歓声を上げて喜んでくれた大花火となりました。この気概、勇気を範と生かされて年末商戦、元気で頑張る良い年をお迎えください。

追伸「これからの日本経済より大切なこと～池上彰参照～」